

平成31年度地方創生に向けて“がんばる地域”応援事業 採択一覧（申請書より）

都道府県	市(区)町村名	事業名	実施主体名	事業の種別	事業の趣旨又は目的	事業概要
秋田県	由利本荘市	地域を支える人材育成事業	由利本荘市	ア 人材育成 伴走型支援事業	地域内に将来への希望を持って活動する「希望活動実践者」と、住民の思いや力をつないで新たな価値を創造する「横結人材」を増やすことで、挑戦することに寛容な土壌をつくり、自ら考え共に集い行動に移すことのできる人材があふれる好循環を生み出すことを目的とする。	①学びつながり合う場の創出 ②市民と共に歩む職員の育成 ③市民と行政が共に歩むための挑戦の場の創出
千葉県	いすみ市	いすみ地域リーダー養成	いすみ市	ア 人材育成 伴走型支援事業	現在、地域活性化センターが主催し、いすみ市職員も毎年2名(これまでに6名受講)が受講している地域リーダー養成塾のいすみ市版を開催する。市の若手から中堅職員を対象に、指導教授と相談しながらテーマを定めた上で、自分なりの分析・研究を進め、教授の指導を受けながら事業案をまとめ、評価が高いものについて事業化を検討し、受講者のモチベーションを高めるとともにいすみ市の未来を担う人材を育む。	いすみ地域リーダー養成塾により、地域活性化の取り組みに関する知識やノウハウを有する長野県立大学自村秀教授を招へいし、職員等向けの人材育成講座を実施。平成30年度より開始した事業であり、平成31年度も引き続き本事業を通じて、主体的に地域と関わり、現場主義で地域とともに進化し、真の地方創生を実現できる中核人材の育成を目指す。
静岡県	三島市	三島の未来を担う人づくり事業	三島市	ア 人材育成 伴走型支援事業	行政と民間企業の核となる人材を育成し、その人材が集うことによる様々なイノベーションを地域の発展の起爆剤とする。また、地域内外のヒト・モノ・コトをつなぎ、新たな価値を創造する触媒機能をもたせる人材を育成し、総合計画の策定とあわせることで将来のビジョン形成の一角を担っていく。 3年間事業の2年目。	○1年目：人材の発掘と養成、地域課題の共有、まちづくり提案公募を行う中で、地域のリーダーとなりうる人材を発掘し、6回の育成講座を開催。加えて東京に近い地を生かしたレベルの研修等にも参加。交流を図り官民の境界なく三島をリードするための組織化を目指し、街づくりに関する提案までを行う。 ○2年目：事業の実践と人材育成の拡大、まちづくりへのコミット1年目の提案をさらにブラッシュアップし、取り組みを開始。加えて新たな人材育成を図るため、基礎研修を開催。また、更なる研鑽の場として1年目の受講生対象の研修会等と併せて、三島市総合計画の基本構想づくりを官民のグループとして主体的に関わることで今後のまちづくりを進めていく。 ○3年目：協働・共創のまちづくへ、好循環の基盤づくり 2年目同様提案をブラッシュアップかつ事業化を進めるとともに、研修の運営側に回りまちづくり関係者を増やし、さらに拡大していく。
静岡県	牧之原市	まきはら地域づくり人財育成事業	牧之原市	ア 人材育成 伴走型支援事業	○人口減少や高齢化が著しく進む中、地域の活性化につながる地域づくり事業を市民との協働により立案・実施をする ○縦割りでない風通しのいい行政組織づくりの推進など、自立・自律した人財の育成を図る。	○専門講師による研修会や地域づくりセミナーの開催 ○各種人材育成研修への参加 ○地域づくり先進地への視察研修 ○対話による協働のまちづくりワークショップの開催、政策提言 ○提言内容の具体的な実践
滋賀県	東近江市	東近江市地方創生人材育成推進事業	東近江市	ア 人材育成 伴走型支援事業	人口減少、少子高齢化が進行するなか、持続可能なまちづくりを行うためには、人口の維持・増加を目指す取組に加え、まちづくり人口の密度を高める(まちに主体的に関わる住民やまちのことを我が事と考える住民を増やす)取組が必要である。 住民がまちに誇りを持ち、主体的に関わりを持って仕組みの構築を目指すし、「これからの人材育成の方向性及び施策をまとめた計画の策定」と「具体的な人材育成に関する事業」を実施する。	○地域づくり人材育成アクションプランの策定を行い、プラン策定後は、人材育成に関するフォーラムを開催し、広く市民と人材育成の意義等を共有する。 ○今後まちの担い手となる若年層をメインターゲットとしたまちに関わるきっかけとなるような事業を中心に、市民等を対象とした各種の人材育成推進事業を実施する。
京都府	福知山市	福知山市地域づくり人材育成事業	福知山市	ア 人材育成 伴走型支援事業	市民とともに地域を向き合う職員、また、地域の自治を担う人材、さらに未来を開く若い世代をセクショノや市民の枠を超えて育てる仕組みを構築し、協働によるまちづくりを進めていくことを目的とするもの。	○地域課題に向かい合い、主体的に解決していくための組織づくりや自治を担う人材育成のためのまちづくり講座の実施 ○高校生や大学生など、次世代を担う若者が地域との関わりの中から主体的に未来を拓く人材となるための機会の創出 ○政策形成能力の向上やファンタジー研修によるコミュニケーション力の育成など、市民とともに課題に向かい解決できる職員を育成
島根県	飯南町	ヒト・モノ・コトをつなげる人づくり事業	飯南町	ア 人材育成 伴走型支援事業	行政の職員研修と住民の地域づくり研修を融合させ、共創の地域づくりをデザインするプラットフォームの形成を目指す。地域内外のヒト・モノ・コトをつなぐ横断人材が求められていることから、多様な地域課題を自らの思考と行動で解決する人材を育成する。	受講対象者に制限を設けず、立場や年代が異なるモチベーションの高い受講者を毎年新規で募り、4年間継続して開講する。 ○段階的な内容で全6回の連続講座を実施、併せて再履修用の講座を実施 ○講座終了後の活動共有等のため、修了者向けのフォローアップ研修を実施
熊本県	菊池市	菊池市魅力創造まちづくり人材育成事業	菊池市	ア 人材育成 伴走型支援事業	職員相互の連携共働する風土を醸成するとともに、市民との共創により新しい価値を生み出すことのできる能力を備えた職員を育成することを目的とする。	○人材育成アクションプラン作成 ○基礎研修の実施 ○地域活性化センター研修への参加
山形県	長井市	地域経済循環分析に関する調査	長井商工会議所	イ 地域経済 循環分析 実施支援事業	人口減少による労働力不足と個人消費の低迷及び市外流出により、市内小売・サービス事業者が経営難に陥っていることから、本調査結果に基づき対応策等を検討のうえ、市内業者の経営戦略や今後の当該市の施策に反映させる。	○市内の所得分配状況、消費動向、企業の投資意向等を就業データ、購買データ等から調査・分析し、所得・消費・資本の流入状況把握 ○上記の結果をもとに、今後の地域経済活性化に向けて必要な方策(案)を検討
山形県	白鷹町	地域経済循環分析に関する調査	白鷹町	イ 地域経済 循環分析 実施支援事業	当初の経済循環構造について、産業界等と連携して、定量的に分析、シミュレーション、考察することで、地域内総生産の増加に向けた施策を検討する。	○地域経済循環構造の情報収集・分析を行い、地域において望ましい経済構造パターン等のシミュレーションを作成 ○上記の結果をもとに、産業界を交えて意見交換を行い、地域外への販売や地域内調達を増加させるために必要な支援策(案)を検討
神奈川県	秦野市	秦野市地域経済循環分析に基づく経済波及効果調査	秦野市	イ 地域経済 循環分析 実施支援事業	・市内産業、企業の現状・課題や、スマートICの開通による本市への経済波及効果などについて、地域経済循環の視点による分析を実施する。 ・その結果を踏まえ、地元企業等と意見交換を行い、地域産業への支援策や更なる企業誘致のあり方について検討する。	○RESAS等に基づく多面的な市内産業構造の分析と、産業連関表を用いた経済波及効果の推計 ○調査分析結果及び今後の産業振興策の取りまとめ ○企業誘致について、本市の特徴を活かせる業種・企業等にターゲットを絞り効果的な企業誘致を推進
静岡県	袋井市	地域の「稼ぐチカラ」向上に向けた地域経済循環分析事業	袋井市	イ 地域経済 循環分析 実施支援事業	「地域の稼ぐチカラ」を高めるための効果的な戦略立案を目的に、地域経済循環分析を実施する。 その結果を踏まえ、様々な関係者とエコシステムによる議論を重ね、地域経済の活性化に資する政策立案に繋げる。	○生産(地域の産業構造・強み、中核企業等)、分配(雇用・所得など)、消費(買物動向など)、投資(投資・貯蓄の状況など)、域際収支(エネルギーなど)について実態を調査分析 ○本分析結果を踏まえ、地域内の産業・経済やまちづくりに携わる様々な関係者と課題を共有し議論を重ねることで、地域の「稼ぐチカラ」向上に向け、より効果的な政策立案に繋げていく。
滋賀県	長浜市	長浜地域観光経済循環分析事業	長浜市	イ 地域経済 循環分析 実施支援事業	観光分野における地域内調達率向上のため必要なデータを収集し、その結果をもとに効果的な仕組みづくり(案)を検討する。	○アンケート調査により、市内における域内調達率および観光客の顧客単価を算出 ○その数値に入込客数調査の結果を加え、市の観光収入額の算出を行い、観光収入額の向上を目的とした効果的な仕組みづくり(案)を作成

都道府県	市(区)町村名	事業名	実施主体名	事業の種別	事業の趣旨又は目的	事業概要
兵庫県	たつの市	地域経済循環分析に関する調査	たつの市	イ 地域経済循環分析実施支援事業	地域経済循環分析事業を通して、地域経済のヒト、モノ、カネの流れを分析・評価し、本市における地域創生事業の企画立案に反映する。	○市内事業所の取引関係（仕入・販売、設備投資等の状況）及び市民の消費行動に関するアンケート調査を実施 ○上記アンケートなどをとくに、地域内での財・サービスの流れを、産業部門相互間及び産業と家計との取引関係から表した「たつの市産業連関表」を作成
島根県	松江市	地域経済循環分析に基づく選ばれるまちづくり推進事業	松江市	イ 地域経済循環分析実施支援事業	移住定住の促進には市内での所得創出が重要と考え、産業構造分析や域内調査調査を実施し、地域経済循環分析の観点から効果的な移住定住施策を検討する。	○稼いでいる産業、生産性の高い産業の抽出・分析、所得増加のための要因分析、域内調査調査等の実施 ○本分析結果をもとに、商工会議所や商店街連合会などと産業振興施策や雇用促進策などについて検討
島根県	海士町	海士町版産業連関表活用事業	海士町	イ 地域経済循環分析実施支援事業	自立したまちづくりのため、島外から獲得した外貨を島内循環させる仕組みづくりを目的として、島の経済状況を把握できる精度の高い資料を作成するとともに、行政と島内事業者の一体的な検討会を実施し、地域内経済循環の向上を図る。	○各種データを収集し、島の経済状況を把握できる海士町版産業連関表を作成 ○産業連関表を活用し、今後の島内経済循環促進策を検討するために町、商工会及び民間企業等で構成する検討会を開催
広島県	安芸太田町	持続可能な地域の未来づくり事業	安芸太田町	イ 地域経済循環分析実施支援事業	町内4つの地域をモデルとして、地域住民や事業所の生産面の分析及び家計調査等による支出面の分析を行い、持続的な地域組織と地域運営のための方策を検討する。	○モデル地域における生産及び支出分析 ・家計調査及びヒアリング ○今後の地域運営体制及び地域振興策についての現地検討会の開催 ○小規模地域における人口推計
北海道	旭川市	地域住民が自ら考え発展させるコミュニティ維持・活性化事業	旭川市中心市街地活性化協議会	ウ 一般事業	新たな旭川市中心市街地活性化基本計画において、中心市街地内の住民が自ら活性化のための事業提案及び実施を行うこととして、多様な主体が事業を連携しながら実施することで市内のみならず、道北地域全体のコミュニティ維持及び活性化に資する。	(1) まちなか景観形成 シャッターベントなどで良好な景観形成を行う他、空き店舗をコミュニティ資源として活用する仕組みづくり (2) 多世代交流推進 健康長寿をテーマにした多世代交流の取り組みを実施。 (3) 地域資源活用 新たなたまり空間の開催やネイチャーツアー
北海道	長沼町	タンチョウも住めるまちづくり PR・普及啓発事業	長沼町	ウ 一般事業	「タンチョウも住めるまちづくり」の推進のため、様々なイベントを開催し普及啓発を行ってきたが、町内外での取組に対する認知度が低いのが現状。タンチョウやタンチョウが暮らせる環境を地域資源として、観光客等を誘致し、道内外から人を呼び込むことで、地域の活性化に繋げる。	「タンチョウも住めるまちづくり」をPRする動画を作成し、札幌市にある大型ビジョンで動画の放映を行う。また動画を視聴できるQRコードを掲載したステッカー・ポスター等を作成し情報発信を行い、本取組の認知度を高める。 ・事業終了後も各種イベントでの放映、町内外に掲示されたポスター等によりPR・普及啓発を継続的に行う。
岩手県	滝沢市	まちぐるみで行う地域のお仕事未来のお仕事体験事業	滝沢市	ウ 一般事業	地場産業の職業体験を実施し、地場産業の後継者育成につなげるとともに、地場産業のPRを展開していく。また、大学等のIT技術を使用して未来のお仕事体験を実施し「職」への関心を高める。	市内全域で行う大規模な職業体験イベントを、行政のみならず、市内企業、大学等と連携して実施し、翌年度以降は独立して実施できるようノウハウを学ぶ。
岩手県	紫波町	住民、大学と連携した文化と暮らし掘り起こし事業	紫波町	ウ 一般事業	生活圏の広域化、少子高齢化の進展等といった地域課題に対して、大学生等の若者が産学、年中行事など地域のふしについてフィールドワークを行い、地域において「当たり前」とされていた生活文化を可視化・可視化し、地域活性化に資することを目的とする。	・大学生による地域住民へのフィールドワーク、地域住民に向けた成果報告会の開催、調査報告書の刊行
岩手県	金ヶ崎町	地域ブランディングを通じたまちづくりインキュベーター育成事業	金ヶ崎町	ウ 一般事業	異業種のジョイントベンチャー・ユニットを中心として、地域ブランディングと人材育成を目指す。出口戦略から逆算し地域ブランディングを行うことで、行政や地域の壁を越えた新しい発想を生み出し、同時に既成概念や既得権といった弊害を抑え、地域としての一体感を創出する。	・デジタルマーケティングの重要性に鑑み、国内外に発信できる町の資源の洗い出し作業と情報発信を行う。 ・町のイメージとなる「ブランドコンセプト」について企業や住民と座談会等により深化させ、方向性を確定する。 ・ブランドコンセプトに基づいたデザインの具体化のため、社会実験を行う。 ・社会実験の結果分析により、事業化に向けた展開を図る。
岩手県	住田町	町民参加による未利用間伐材等の収集システム構築事業	住田町	ウ 一般事業	間伐材等の林地残材を木質バイオマス資源として有効利用するため、地域住民参加型による間伐材等のグループを形成し、地域内の小規模ビジネスの確立を目指す。併せて、災害防上、林地環境の保全、雇用創出、二酸化炭素排出量の削減を環境、エネルギーの地産地消の仕組みを構築する。	・林地残材等の「運び出し隊」のモデルの実証。 ・実証に基づき価格の設定及び流通の仕組み構築。 ・「運び出し隊」のための安全衛生講習、技術習得のための研修の開催。 ・「運び出し隊」の公募、人材育成、ガイドラインの策定。 ・地域内通員作成のためのワーキンググループの開催。
秋田県	大仙市	地域で支えるプログラミング教室実施のための人材育成	神岡ICTラボ	ウ 一般事業	地域の中で子どもたちが気軽にプログラミングを学べるよう、学習を支えるメンター・サポーターとして地元の子世代や中高生等を育成するとともに、プログラミング教室の開催等を通して世代間の交流やICTへの理解促進につなげ、地域の活性化を図る。	・プログラミングについての体験型教室の開催 ・プログラミング学習を支える地域のメンター・サポーターの育成
富山県	砺波市	「ふく福」ブランド強化プロジェクト	ふく福出荷組合	ウ 一般事業	砺波市栲植山地区における耕作放棄地を農地へ再生し、「ふく福」のような新たな地域特産品の栽培を行う。また、「ふく福」の収穫等の体験事業を行うことで地域外住民との交流を行い、地域の活性化を図る。	①「ふく福」ファンクラブ交流プロジェクトで「ふく福」の収穫等の地域外住民との体験イベントを行い、生産者と消費者との交流を行う。 ②産地の「ふく福」ブランド産地プロジェクトで特産品を栽培し、「ふく福」ブランドのさらなる周知を図る。 ③農地再生プロジェクトで耕作放棄地を農地として再生させる。
福井県	福井市	朝倉トレイルラン	朝倉トレイルラン実行委員会	ウ 一般事業	一粟谷朝倉氏遺跡を中心としながらも、古い街道の町並みや、山道、農家民宿、地域の特産物（おにぎり、そば、米パン、地酒）などを活かした活動に取り組みすることで、持続可能な地域づくりを目指している。 また、「朝倉トレイルラン」を通じて地域の魅力を発信することで交流人口の増加を促し、地域に対する愛着と誇りをより向上させる。	・身近な里山を感じながら、歴史とおもてなしに特化した「朝倉トレイルラン」を実施。 ・コース中の休憩地点や発着場では、商工会や婦人会、地元中学生など各種団体などの協力を得て、地元食料や特産品を中心とした模擬店を多数出店 ・小学生を対象として「ミニトレイルラン」を同時開催し、大人だけでなく、家族そろって参加できる大会を目指す ・県外からも多くの人が参加してもらうため、農家民宿や宿泊ホテルと連携し、潜在型の参加を募集
福井県	勝山市	縄文の里ふるさと創生事業	縄文の里料理研究会	ウ 一般事業	地域の女性を中心となり地域の郷土料理を市内内外に発信する活動を続ける中、譲り受けた空き家を改修し憩いの場を創出する事で、子どもから高齢者が気軽に集える地域内の交流の促進や、地域農産物を使った料理提供による地域経済の循環など、地域全体の活性化を目指している。	・地元農産物を使い郷土料理を踏まえたオリジナルランチの提供 ・お団子やぼたもち、農産物の直売のほか、新商品を開発 ・子どもと高齢者が集える体験教室等の実施 ・定期的イベントの開催による地域内外の方との交流の創出 ・施設の一部を改修し、地域内外の方が交流できる新たなスペースの創出

都道府県	市(区)町村名	事業名	実施主体名	事業の種別	事業の趣旨又は目的	事業概要
長野県	上田市	新規就農者支援体制整備事業	NPA(New People to the Agriculture)プロジェクト	ウ 一般事業	農家の減少及び高齢化の進行により集落機能が低下しており、担い手農家や地域の負担が増加している。この問題を解決するために、首都圏の農村回帰や田舎暮らしのニーズを掘り起こし、地域に農家の担い手を呼び込む事業。	地域での就農支援団体と広域連携市町村がプロジェクトチームを結成し、新規就農者に対しきめ細やかな支援を行う。また、地域のリーダーも併せて育成する事業も行う。
岐阜県	飛騨市	関係人口研究プロジェクト	飛騨市	ウ 一般事業	人口減少が進む中で、「関係人口」に着目し、市外の応援者を増やすため、関係人口の増加に取り組んでいる。この取組の更なる進化(深化)を目指し、産官学民による研究と実証を包括する組織を編成し、「研究」や「マーケティング」として視点を取り入れながら、地域課題に取り組み関係人口増加につなげるとともに、地域住民自身のファンづくりの意識醸成を図る。	【研究】関係人口となりうる、もしくは既になっている人の属性や性質を調査し、関係人口となるメカニズムの解明 【検証・実証】研究で得られた仮説や知見を基に、実際の地域課題に取り組み、関係人口増加を目指す。 【発信】研究課程や実証を含めた結果を地域の魅力として、WEBやSNSで広く発信し、今後関係人口となりうる多くの人への波及を目指す。
愛知県	津島市	神島田「地域みんなdeがんばる！」事業	神島田小学校区コミュニティ推進協議会	ウ 一般事業	地域における居場所(場)の消失や共同管理する仕組みの崩壊、担い手不足、空き家・空き店舗の増加などの多様な課題に対し、地域のヒト・モノ・コトを再認識し、課題を持ち寄り、住民一人ひとりがそれぞれの得意分野を活かして解決に取り組むことで、若者男女みんなが輝き、地域をより元気にする。	新たに設置するモデル施設と既存の施設を活用したサテライト施設において次の取組を実施。 ① 空き家・空き店舗を活用した地域の居場所づくり ② 発見！人財育成ワークショップの開催 ③ ことごとつなごう地域のうち事業 ④ 元気な高齢者創出事業 ⑤ 企業等の参加の仕組みづくり
愛知県	高浜市	シムシティを活用した未来の地域づくり創造事業	高浜市	ウ 一般事業	これまで市民と行政が協働したまちづくりを行ってきた強みを将来に続けていくため、後継者の育成、若い世代への思いの伝承が必要となるが、若い世代が進学や就職のタイミングで転出してしまふ現状がある。そこで、将来の市を担う若者世代が、自ら主体的に考え、学び、地域を磨く人財として活躍、挑戦できるきっかけを創出し、2020年で市制50周年を迎える高浜市が今後さらに50年、さらにその先へとつながっていくための世代のリレーができるまちづくりを目指す。	市民に自分が暮らすまちの未来を議論してもらい、それを都市経営シミュレーションソフトを使って、バーチャル世界の中で築いてもらう。この疑似体験を通して、地域に誇りや愛着を持ちつつ主体的にまちづくりに参画する機会を高め、将来の街を担う人材を育成する。
愛知県	東浦町	空き家を活用したコミュニティスペースを拠点に若者が活躍する地域づくり	Connectng To Youth	ウ 一般事業	町内の空き家を活用してコミュニティスペースを設置し、若者と地域住民の交流の場を提供することで、若者の地域への帰りを創出する。また、空き家を核としたまちづくりに関するイベントを実施し、まちづくりのノウハウを共有し、地域の潜在的なまちづくり人材を発掘する。	・中心市街地に空き家を活用したコミュニティスペースを設置し、多様な年代の住民(特に若年層)が集う場を提供する。 ・大学教授を講師に迎え、地域住民を集めたアイデアソンを実施する。 ・地域活性化の取組を発信するためのプラットフォームを整備する。
京都府	木津川市	当尾の郷会館 Creation Project 企画「とおのおと」実行委員会	当尾の郷会館 Creation Project 企画「とおのおと」実行委員会	ウ 一般事業	「当尾地域力創造プラン」に基づき、当尾の郷会館(旧当尾小学校校舎)にて現代アート作家と住民連携事業を実施することにより、当尾地域の歴史文化・自然等、高いポテンシャルを持つ当尾地域の活性化を図ることを目的とするもの。	・地元作家による現代アートの展示会の開催 ・地元農業者等の野菜や加工品などを販売するマルシェの開催 ※平成30年度本事業採択の「通い飯地域おこし協力隊」と連携して事業実施
京都府	井手町	産官学・若者連携による「井手ぐるめ」発信プロジェクト	井手町商工会青年部	ウ 一般事業	滞在可能な施設や特産品が乏しいという地域課題に対応するため、井手町商工会青年部による郷土料理をアレンジした「井手ぐるめ」の開発や京都産業大学生ら「井手町地域力創造」による町づくりの取組など、町内外の若者による「食」の魅力発信を行い、エンビクプライドの向上及び交流人口の増加を目的とするもの。	○YouTuberと連携した参加型グルメイベントの実施 ○「井手ぐるめ」を核とした地元中学生向けの職場体験や地元小学生向けの交流イベントの実施 ○町内事業者によるお話し産物(物産展)の開催 ○オイルミキシングイベント「井手！みねしよん」と「井手ぐるめ」提供の連携
奈良県	奈良市	「さとやま民泊」推進事業	奈良市	ウ 一般事業	奈良市の農村地域における地域活性化と奈良市への滞在時間の増加を目指して取り組んでいる「さとやま民泊」のブランドイメージを確立し、民泊を推進することを目的とする。	・地区計画策定ワークショップ ・広報ツールの作成 ・インバウンド対応セミナー ・WEBコンテンツ作成・運用セミナー
奈良県	三宅町	子ども×大人の遊び学び共育事業	三宅町	ウ 一般事業	アートを媒体にした住民参加型の事業を開催するとともに、その事業に携わる住民組織を育成することにより、事業を地域ぐるみのイベントとして定着させ、心豊かに子育てが出来、子どもたちが健やかに育つ地域づくりにつなげることを目的とする。	・アーティスト等との共同ワークショップ ・有志団体によるライブイベント
和歌山県	和歌山市	持続可能な漁業を継承する伝統漁法の発信を目的とした土産品の開発と検討	加太地域活性化協議会	ウ 一般事業	加太の古くより行われてきた伝統的な漁法の継承と発信を目的として、加太の魚介を使用した土産品の開発検討を行う。また、既に土産品に関して、全体的なデザインの一貫を行い、土産品のパッケージとしてのブランディングを高める。これらの製作・販売により、地域内の雇用を促進する。	1.加太の漁法に触れる機会としての土産品の開発。 2.かえらしい、手に取りやすい物をリーズナブル価格で販売。デザートを加えたパッケージの再検討。 3.若者に高級魚の一切れを味わってもらった土産品にする。 4.地域の魚料理の発信。 5.高齢者や移住者の雇用創出の可能性検討。 6.現状魚が低価格で売り落とされるシーズンに、加工品に回して保存することで漁師の収入の安定化。 7.災害時の食料として土産品を備蓄する。
和歌山県	有田川町	ぶどう山椒・わがごと・町おこし事業	有田川町活性化推進実行委員会	ウ 一般事業	有田川町の特産であるぶどう山椒を活用し、地域住民が主体となり今までになく魅力的な商品を開発する。この商品ツールに可食PRR、有田川町のファンを(交流人口)を増やし、「ぶどう山椒」による町おこしを展開していく。	1. 有田川町の特産物であるぶどう山椒を活用した新メニューを3種類開発。 2. 開発した商品をかきかきとした町のPRを実施。
岡山県	和気町	学びと挑戦の成長循環コミュニティ事業	和気商工会	ウ 一般事業	和気町では、高齢化社会・生産年齢人口の減少に向けて、地域の未来を担う若者一人ひとりが「これからのまちづくりに必要なスキル」を身に蓄け、生き生きと活躍できる「人財育成」の機会をつくり、そこで得た学びをまちづくりのチャレンジに繋げていくため、まちの様々なキーパーソンと日常的な交流の場を設け、SNS等も活用しながら積極的なコミュニケーションを行うことにより、「学び」と「挑戦(チャレンジ)」を循環させながら、人もまちも成長し続けていく仕組みづくり・場づくりを目的とする。	① コワーキングスペース事業 若者を中心に町内外の様々な人財交流促進、及び現代のワークスタイルに合わせたPC作業を中心とする職業者のワークスペースとして、コワーキングスペースを開設する。コワーキングスペースは和気商工会所有の銀行の跡地(ENTER WAKE)の3階の空きスペースをセルリアンページョン(学生とDIYワークショップを実施し、購入する机等も地元の家賃職人とコラボし、若者が「わざわざ遠いところまで洗練された心地よい空間」を創りたい)。 ② ワークショップ・イベント事業 まちづくりに必要なスキル磨き・交流を目的としたワークショップやイベントを運営する。
徳島県	阿波市	「阿波の土柱」周辺活性化事業	一般財団法人 阿波市観光協会	ウ 一般事業	観光資源である土柱や周辺施設の再活性化のため、中長期的な計画を策定して整備事業を実施し、来訪者の増加による経済循環の活性化を図る。また、整備に伴う雇用創出を外部人材の取り込みにつなげ、市の人口増加に転じることを目指す。	現地調査や専門家による分析を行った後、関係者による協議会を開催し、方向性についての合意形成を図る。それらを踏まえ、中長期的な活性化計画を策定し、滞在拠点としての土柱の魅力を高めながら、周辺施設の開発を行う。
徳島県	つるぎ町	ようこそつるぎへ！ 私たちがおもてなしします。	つるぎ町	ウ 一般事業	子ども・女性・高齢者が主体となり、観光客及び地域住民を接待する。その中で、つるぎ町独自の文化財・芸能・郷土食を披露し、観光客が持つ町に関心を持つとともに、地域住民が町への誇りや愛着心を育むことで、郷土文化を次世代に伝承できる場となることを目的とする。	町並み案内の講習を受けた子どもたちが主体となり、観光客に町並み案内を行う。案内を行う中で観光客に対し、つるぎ町独自の文化・芸能を披露したり、地域で生産・収穫された食材を使用した郷土食を提供することで、つるぎ町の伝統に触れる機会をつくり出す。

平成31年度地方創生に向けて“がんばる地域”応援事業 採択一覧（申請書より）

都道府県	市(区)町村名	事業名	実施主体名	事業の種別	事業の趣旨又は目的	事業概要
香川県	小豆島町	小豆島ブランド形成事業	小豆島町	ウ 一般事業	小豆島出身のアドバイザーを活用し、“外からの視点”、“分析する視点”、“経営者の視点”という3つの視点を活用し、島民のインナーブランディングを行いながら、同時に、一過性で終わらない、骨太なブランディング戦略を策定する。	「小豆島のブランド戦略を策定する」 「外からの視点」、「分析する視点」、「経営者の視点」という3つの視点を活用し、事業の第一段階として、島民のインナーブランディングに重きをおきながら、骨太なブランディング戦略を策定し、次年度以降に繋いでいく。
愛媛県	宇和島市	「また来たい」の出会いが生まれるコミュニティ食堂	九島地区地域づくり協議会	ウ 一般事業	架橋された九島の移住促進や交流人口拡大のため、空き家を活用したコミュニティ食堂の整備。	・空き家の整備・営業準備。 ・サイクリングマップの作成。
愛媛県	西予市	凍れ！アイス柑橘新商品の開発～とのエンジン！～	渡江から一歩を踏み出す会	ウ 一般事業	昨年7月の豪雨災害により柑橘園地・栽培も大きな被害を受けたが、新製品開発により、柑橘栽培と地域の復興を目指す。	・アドバイザーによる助言指導。 ・パッケージの制作。 ・試作品の製造・販売。 ・加工所及び備品の整備。
愛媛県	松前町	「松前が好きやけん、えとこいつばい広めた〜い」推進事業	まさきーいいとこ見つけ隊	ウ 一般事業	松前町はこれまで、大型商業施設の建設で交流人口も拡大するなど、安定した発展を遂げてきたが、今後人口減少が見込まれている。そのため、地域住民が主体となり、町内外の人に町の魅力を知ってもらい、地域の活性化、定住人口の拡大を目指す。	○町の魅力を体感する各種ツアー（ウォーキング、サイクリングツアー等）の開催。 ○町の魅力を知るパンフレット制作 ○交流を広げるふれあいフェアの開催。 ○町内の子どもたちに町の魅力に気づいてもらう座談会の開催。
佐賀県	嬉野市	「古里を活かす塩田地区」地域づくり事業	塩田地区地域コミュニティ運営協議会	ウ 一般事業	地域を構成する集落に住む人達が、今まで培ってきた古里を守り、元気に頑張る姿を示すことが地域活性化の要である。そのためには、地域全体の意識高揚と住む地域の良さを対外的に広め、そこに集う人達が安心、安全に暮らさなければならない。地域全体を牽引した古里を活力あるものにするためにこの事業に取り組む。	・高齢者の健康年齢の向上 ・子供を含め、地域集落の文化・伝統行事・史跡を環境づくりを目指す。 ・人が集まる観光スポットの構築を図り、交流人口の増加と歓声が聞かえる地域づくりを目指す。 ・増加する荒廃田圃の減少、解消を図るために、ソバ等の作付けを行い、地域特産品としての商品作りを目指す。その為、地域内でのイベントの実施を行い、地域内連帯感の醸成を図る。
長崎県	波佐見町	波佐見講堂周辺の区画整理事業に伴うデザイン検討事業	波佐見講堂・まちづくり協議会	ウ 一般事業	波佐見講堂(S12築、H22有形文化財登録)が位置する西ノ原地区では廃棄した陶製所跡をカフェやアートギャラリー等へリニューアルした「西ノ原工房」が新たな観光拠点として注目されている。この講堂と西ノ原工房の間に位置する集落1号線の沿線による区画整理区域の宅地のデザイン・協定案、陸地の利活用、道路のデザインについて地元住民主体の協議会において検討を行う。	＜事業概要＞ ①まち歩きを行い、「波佐見らしさ」を整理しデザインを検討するうえでポイントを整理する。波佐見講堂や西ノ原工房の雰囲気とも調和するデザインの基本方針を協議会内で共有する。 ②協議後の景観に面する宅地のデザイン協定案を策定 ③道路(特に歩道部分)のデザイン案を検討 ④陸地(講堂正面の町所用地)のデザイン案を検討 上記内容について全11回(予定)の協議会を実施し、デザイン案を取りまとめる
熊本県	宇城市	新しいコミュニティのかたち・仲間づくり	宇城市	ウ 一般事業	本事業では、若者や女性を対象に、市が抱えるまちづくりに関する様々な地域課題の解決や新たな企画の立案・実行に口添えの力や人材を担った次世代の宇城市を担う人材を育成し、「ヒトの資源」不足の解消を図る。	・地域活性化人材育成塾講座(ワークショップ形式、計5回)及び発表会の開催
大分県	豊後高田市	大分県豊後高田市「ご近所観光」プロジェクト	豊後高田市観光協会	ウ 一般事業	外出の機会が減る高齢者にお出かけの機会を作るための仕組み「ご近所観光」。AI搭載ロボットをカスタマイズすることで、自然な対話を楽しみながら、市内の悪い出入りポイントを訪れることを可能にする。 また、安全を確保できるスポットの情報を整理するとともに、お出かけ前に期待を膨らませ、お出かけ後も振り返りを促す材料を用意することで、介護予防視点からの様々な効用が期待される。 市民が地元の名所を楽しくて自発的に情報発信することは、同世代の親子への訴求につながり、結果として観光振興、定住促進へ結びつける。	○「ご近所観光」 ○「ご近所観光」ノート制作 ・バリアフリー調査 ・プログラム作成 ・AIロボット購入 2台 ・プログラミング用ノートPC購入 1台
大分県	玖珠町	活性炭堆肥を活用した地域づくり指導者養成事業	くす農業夢創塾	ウ 一般事業	畜産による糞尿を活用した活性炭堆肥を導入することで、新規就業者や高齢農業者が持続して農業ができる仕組み作りを行う。	・活性炭堆肥を活用した農業技術者及び指導者の養成 ・先進地視察及び先進地技術者の招致による研修会の開催
鹿児島県	南九州市	コミュニティへの愛着、創生事業	NPO法人ニアあなたの近くに	ウ 一般事業	自分の住むコミュニティに関心・愛着を持ち、地域の担い手であることに気づき、つながることににより元氣な住民が増え、他社のために頑張れるコミュニティづくりを目指す。	イベント等の実施 ・ふれあい相談支援事業 ・コスプレワークショップ ・街はギャラリー ・街はギャラリーコンサート ・講演会 ・手作り教室
鹿児島県	錦江町	女性・若者・シニア活躍応援事業	錦江町	ウ 一般事業	女性の感性を生かせるビジネスややりがいを持ってもらえる仕事を創出させる体制づくりを構築し、多様なモデルビジネス・担い手を支援するまちを目指す。	・各世代の懇話会設置 ・担い手である若者の意識調査 ・錦江町シニアプランコンテストの開催 ・基礎講座の開催 ・先進地視察
沖縄県	名護市	名護市子どもプログラミング人材育成事業	コーダー道場名護	ウ 一般事業	子どもたちがプログラミングを自主的に学び、制作し、表現することで、プログラミングに関する人材を育成し、次世代を担う若者が活躍する名護市をつくることを目的とします。	・地域住民や学生、保護者を対象とした指導者育成講習会を実施する。(1回、4時間、定員20名) ・子どもたちへプログラミング体験の場を提供(16回、各回3時間、定員12名) ・プログラミング言語Scratchを用いてゲームやアニメーションの作成 ・小さなコンピュータ「マイクロボット」を使っている電子工作 ・コンピュータを持っていない参加者へ機器を貸出 ・ゲームやアニメーション、電子工作には、名護市公認キャラクターや特産品の画像も使用し制作と表現の場を提供する。 ・名護市の科学イベント等にブースを出展し、子どもたちへプログラミング体験の場を提供
沖縄県	久米島町	地域経済循環の改善と、地域住民の活躍推進を目指す「複業ギルド(連合体)」創設事業	久米島町	ウ 一般事業	島内のBtoBを中心としたビジネス案件を島内で購えるようにすることを旨とし、複業型個人事業主をメンバーとしたプロジェクト「複業ギルド」立ち上げを支援する。これにより、久米島が抱える以下3つの課題解決を目指す。 1.移住希望者・転出者の希望年収と実際の年収の格差(40-100万の差) 2.プロジェクトの島外への外注による資金の流出、経験・ノウハウの流出による人材育成機会の損失 3.人材の創造性が発揮できるような仕事が少ないことにより、創造的なUターン者の獲得機会の損失	1.「複業ギルド」のコーディネーターを設置する。 2.コーディネーターが、案件の受発注、連絡体制、プロジェクト管理、アサイン(割り当て)方法などの仕組みを構築する。 3.コーディネーターが「複業ギルド」メンバーを募集する。それぞれのスキルや経験・やりがいなどをヒアリングし、データベースを構築する。 4.コーディネーターが顧客(島内外の行政・外郭団体・企業)へ営業、案件の受注(「複業ギルド」への発注を行う)を必要に応じて「複業ギルド」のレベルアップのための研修会や講師派遣等を実施する。

平成31年度地方創生に向けて“がんばる地域”応援事業 採択一覧(申請書より)

都道府県	市(区)町村名	事業名	実施主体名	事業の種別	事業の趣旨又は目的	事業概要
沖縄県	西原町	「Coder Dojo Nishihara」を設立し、「ロボカップジュニア・ジャパン・沖縄ブロック大会」を成功させる事業	西原町	ウ 一般事業	先進的な技術スキルを有し、人口問題をはじめとする社会課題を解決していく人材育成が、持続可能な地域を実現していくには、不可欠である。 本事業はそうした社会情勢に対応するため、未来の西原町を担う人材育成を目的として、地域の産官学民一体となり、町内の子どもたちに新しい技術を学ぶ機会を提供していくものである。	<p>日本全国160以上の拠点を子どもたちにプログラミングを学ぶ機会を提供しているCoderDojo(コーダードウジョウ)と町が実施主体となり、地域の大学、高校、小中学校と連携して子どもたちへプログラミングやロボット等の先進技術を学ぶプログラミング道場を定期開催する。また、その成果を図るためのコンテストやセミナー、ワークショップ等を開催し、子どもたちへ多様な学びの場を提供すると共に、町内外に当事業が掲げる人材育成の意義や成果を広報し、地域における先進的な科学技術人材育成へのリテラシー向上にも寄与していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プログラミング道場の定期開催(月2回程度) ○セミナー・ワークショップ開催(8月予定) ○RoBoRoBo Summer Campへの参加(9月予定) ○ロボカップジュニア・ジャパン・沖縄ブロック大会開催(12月予定)